

2012年度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設され、今年で8年目を迎えるに至り、2012年9月末時点で200名以上の卒業生を社会に送り出してきた。

本大学院の目的はグローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。この目的を達成していくために第一義的に重要なことは、会計大学院における教育である。私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎Semester終了後にアンケートを実施することとした。本会計大学院は、2008年度、会計大学院評価機構による認証評価を受け、認証評価のプロセスにおいて本会計大学院が実施しているアンケートは高い評価を得ている。

過年度分のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のホームページ (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2012b.html>) で公開している。私たちの意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や将来私たちが教育した学生を受け入れていただくことになる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。私たち教員は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院へ関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。

私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供すべく努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をメール等でいただければ幸いである。

2013年1月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

2. 実施方法

本報告は、2012年度前期の「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末付録1参照）に関するものである。アンケートは講義中に配布・回収を行い、延べ人数にして426名の回答を得た。アンケートは無記名であり、受講生が5人以上であるすべての講義と、受講生が5人未満で担当教員が希望する講義について実施した。

今回の報告の目的は、本会計大学院における教育の現状を学生・教員へタイムリーに報告することであり、アンケート質問項目ごとの分析は行わず、アンケートの集計結果のみを示すこととしたい。本会計大学院の教育内容・教育方法全般に関する分析については、今年度後期に実施するアンケートの報告書で行いたいと考えている。ただし、今回のアンケートにおいて学生から寄せられた意見の中で、会計大学院の教育全般に関わると考えられるものについては、若干のコメントを行いたい。なお、科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目17の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されており、ワークショップ委員会では、これが次年度以降の講義内容の充実に資することを期待している。

3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

2012年度前期における開講講義数は50科目であり、そのうち履修者が5名以上の講義と、教員がアンケートの実施を申し出た科目の、合計28科目についてアンケートが実施された。開講科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
上級財務諸表	12	12
財務会計	26	22
簿記1	48	34
簿記3	26	22
事例研究（財務諸表分析）	11	11
管理会計	20	13
原価計算1	40	33
原価計算3	27	23
事例研究（コストマネジメント）	10	10
監査	34	28
上級監査	14	9
会計職業倫理	35	25
監査計画の編成法2	5	4
事例研究（監査制度）	9	8
IT監査	9	8
経営管理	19	13
経営戦略	6	6
証券取引行政	20	20
事例研究（証券取引行政）	12	10
企業法	24	17
法人税法	21	20
上級法人税法	10	10
所得税法	9	7
国際会計基準	26	24
ミクロ経済学	9	6
マーケティング	21	20
環太平洋経営事情	7	7
ビジネス・コミュニケーション1	5	4
合計	515	426

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、延べ履修者数515名に対して426名から回答を得た。アンケートの回収率は82.72%であり、前回（2011年度後期、82.15%）や前年度同期（2011年度前期、64.62%）を大幅に上回った。この点から、今回のアンケート結果は会計大学院学生の総意をかなりの程度反映しているものと考えて良いだろう。

なお、質問項目17は科目担当教員が独自に行う質問であり、アンケートの集計には含めていない。

3.2. アンケートに関する基本統計量

各質問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（質問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。併せて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については付録2を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	165	333	19	16	35	125	239	282	258	227	252	196	247	165	225	26
4	227	55	6	12	34	193	118	80	93	109	90	116	106	94	125	12
3	16	19	22	32	61	78	56	46	53	64	61	81	57	117	53	91
2	6	13	51	73	79	18	9	9	13	17	15	23	7	28	14	199
1	11	6	156	173	125	5	3	5	6	5	4	6	6	16	5	17
0	1	-	170	117	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63
合計	426	426	424	423	422	419	425	422	423	422	422	422	423	420	422	408
平均値	4.23	4.63	1.04	1.28	1.84	3.99	4.37	4.48	4.38	4.27	4.35	4.12	4.37	3.87	4.31	2.12
中央値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	4	5	4	5	2
最頻値	4	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
標準偏差	0.83	0.82	1.25	1.24	1.52	0.92	0.84	0.89	0.94	0.96	0.94	1.02	0.91	1.14	0.94	1.25

表2：アンケートの基本統計量

質問項目間の相関関係をみるために、次のような表を作成した。質問16の資格は複数回答が可能となっているが、相関係数の計算上、複数回答については複数の数値を合計した値を用いている。例えば、2と3の資格を持つ回答者は資格の値を5として相関係数を計算している。なお、表2の計算の際には、資格についてこのような合計はしていない。

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.000															
2 出席	-0.008	1.000														
3 予習	0.107	0.144	1.000													
4 復習	0.064	0.149	0.679	1.000												
5 宿題	0.115	0.146	0.466	0.518	1.000											
6 理解	0.066	0.138	0.221	0.153	0.105	1.000										
7 難易度	0.006	0.179	0.192	0.144	0.126	0.536	1.000									
8 教員準備	-0.014	0.181	0.125	0.072	0.096	0.360	0.639	1.000								
9 プレゼン	-0.031	0.187	0.193	0.111	0.133	0.365	0.653	0.760	1.000							
10 教材	0.046	0.099	0.219	0.161	0.104	0.430	0.537	0.632	0.683	1.000						
11 評価方法	0.066	0.155	0.107	0.032	0.062	0.441	0.560	0.537	0.533	0.572	1.000					
12 シラバス	0.010	0.070	0.153	0.122	0.131	0.389	0.527	0.512	0.573	0.485	0.537	1.000				
13 教員評価	-0.027	0.187	0.179	0.103	0.147	0.446	0.667	0.751	0.804	0.645	0.664	0.645	1.000			
14 対試験	-0.079	0.150	0.184	0.293	0.105	0.337	0.413	0.299	0.324	0.320	0.298	0.341	0.380	1.000		
15 キャリア	-0.030	0.170	0.196	0.134	0.185	0.366	0.593	0.578	0.624	0.512	0.499	0.527	0.698	0.413	1.000	
16 資格	0.042	0.093	-0.002	-0.035	-0.041	0.066	-0.090	-0.097	-0.100	-0.128	-0.092	-0.143	-0.107	0.041	-0.053	1.000

表3：質問項目間の相関関係

上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のホームページ (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2012b.html>) を参照されたい。

4. まとめと自由記入欄に対する回答

今回のアンケートは、8割を越える高い回収率を示しており、学生全体の総意をかなり反映しているものと考えられる。私たちは、今回の結果を真摯に受け止め、本会計大学院の教育内容が充実していくよう努力していきたいと考えている。

自由記入欄に書かれた意見の中から、目立ったものを挙げる。これまでのアンケートでも同様の指摘がなされてきたが、今回特に目立ったものとして以下の3つを挙げておく。

i) 課題を相当量こなすことは高い学習効果につながるとの指摘が多かった。その一方で、練習問題や小テストの内容が講義の内容に対して応用やひねりが利きすぎていると、学習効果は余り得られない等の、講義と問題演習の内容の整合性に関する意見も見られた。

ii) 講義内容によっては、2限連続での講義はかえって好ましい場合がある。

iii) 英語で行われる講義を増やしてほしい。

このほか、講義時の話すスピードや、タイムマネジメントに関する意見も見られた。これらの意見については、講義の改善に役立ててもらいたいと考えている。

付録1：「会計大学院の授業に関するアンケート」（2012年度前期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 高度会計職業人コースまたは会計リサーチコース (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目 ^(注) の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

(注) 実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他 (0) 何も無い	複数回答可能です。複数回答をするときはマークシートの16～20の欄に1つずつマークして下さい。(1)については自由記入欄に具体的に記入して下さい。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

付録2：アンケート集計結果（2012年度前期）

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
質問1 あなたの専攻・コース (学年)について、該 当するものを選んで下 さい。	(5) 公認会計士コース(2年)	165	38.73%	質問9 教員の説明や声量な ど、授業でのプレゼン テーションは良好でし たか。	(5) 十分	258	60.99%
	(4) 公認会計士コース(1年)	227	53.29%		(4) ほぼ十分	93	21.99%
	(3) 高度会計職業人コースま たは会計リサーチコース	16	3.76%		(3) どちらともいえない	53	12.53%
	(2) 経済経営学専攻	6	1.41%		(2) やや不十分	13	3.07%
	(1) 経済学部	11	2.58%		(1) 不十分	6	1.42%
	(0) その他	1	0.23%		合計	423	100.00%
質問2 この講義にどのくらい 出席しましたか。	合計	426	100.00%	質問10 テキスト・参考書ある いはプリント等は適切 でしたか。	(5) 適切	227	53.79%
	(5) 90%以上	333	78.17%		(4) ほぼ適切	109	25.83%
	(4) 89-70%	55	12.91%		(3) どちらともいえない	64	15.17%
	(3) 69-50%	19	4.46%		(2) やや不適切	17	4.03%
	(2) 49-20%	13	3.05%		(1) 不適切	5	1.18%
	(1) 20%未満	6	1.41%		合計	422	100.00%
質問3 この講義の予習に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	合計	426	100.00%	質問11 この講義の成績評価の 方法は適切であると思 いますか。	(5) 適切	252	59.72%
	(5) 5時間以上	19	4.48%		(4) ほぼ適切	90	21.33%
	(4) 4-5時間	6	1.42%		(3) どちらともいえない	61	14.45%
	(3) 3-4時間	22	5.19%		(2) やや不適切	15	3.55%
	(2) 2-3時間	51	12.03%		(1) 不適切	4	0.95%
	(1) 1-2時間	156	36.79%		合計	422	100.00%
質問4 この講義の復習に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	(0) 1時間未満	170	40.09%	質問12 この講義のシラバスは 講義を理解する上で役 に立ちましたか。	(5) 役に立った	196	46.45%
	合計	424	100.00%		(4) まあまあ役に立った	116	27.49%
	(5) 5時間以上	16	3.78%		(3) どちらともいえない	81	19.19%
	(4) 4-5時間	12	2.84%		(2) あまり役に立たなかった	23	5.45%
	(3) 3-4時間	32	7.57%		(1) 役に立たなかった	6	1.42%
	(2) 2-3時間	73	17.26%		合計	422	100.00%
質問5 この講義の宿題に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	(1) 1-2時間	173	40.90%	質問13 総合的に見て、この講 義における教員のバ フォーマンスをどう評 価しますか。	(5) 評価できる	247	58.39%
	(0) 1時間未満	117	27.66%		(4) まあまあ評価できる	106	25.06%
	合計	423	100.00%		(3) どちらともいえない	57	13.48%
	(5) 5時間以上	35	8.29%		(2) あまり評価できない	7	1.65%
	(4) 4-5時間	34	8.06%		(1) 評価できない	6	1.42%
	(3) 3-4時間	61	14.45%		合計	423	100.00%
質問6 この講義の内容をどの 程度理解できたと思 いますか。	(2) 2-3時間	79	18.72%	質問14 この講義は公認会計士 試験を受験する上で役 立つと思いますか。	(5) 役立つ	165	39.29%
	(1) 1-2時間	125	29.62%		(4) まあまあ役に立つ	94	22.38%
	(0) 1時間未満	88	20.85%		(3) どちらともいえない	117	27.86%
	合計	422	100.00%		(2) あまり役に立たない	28	6.67%
	(5) 理解できた	125	29.83%		(1) 役に立たない	16	3.81%
	(4) ほぼ理解できた	193	46.06%		合計	420	100.00%
質問7 この講義の難易度は会 計大学院の講義として 適切だと思いますか。	(3) どちらともいえない	78	18.62%	質問15 この講義は、将来の キャリアにおいて役立 つと思いますか。	(5) 役立つ	225	53.32%
	(2) あまり理解できなかった	18	4.30%		(4) まあまあ役に立つ	125	29.62%
	(1) 理解できなかった	5	1.19%		(3) どちらともいえない	53	12.56%
	合計	419	100.00%		(2) あまり役に立たない	14	3.32%
	(5) 適切	239	56.24%		(1) 役に立たない	5	1.18%
	(4) ほぼ適切	118	27.76%		合計	422	100.00%
質問8 教員のこの講義に対す る準備は十分でした か。	(3) どちらともいえない	56	13.18%	質問16 あなたが既に合格して いる資格試験等につ いて、該当するものを選 んで下さい。	(5) 税理士会計科目	26	6.37%
	(2) やや不適切	9	2.12%		(4) 公認会計士短答式	12	2.94%
	(1) 不適切	3	0.71%		(3) 日商簿記1級	91	22.30%
	合計	425	100.00%		(2) 日商簿記2級	199	48.77%
	(5) 十分	282	66.82%		(1) その他	17	4.17%
	(4) ほぼ十分	80	18.96%		(0) 何も無い	63	15.44%
(3) どちらともいえない	46	10.90%	合計	408	100.00%		
(2) やや不十分	9	2.13%					
(1) 不十分	5	1.18%					
合計	422	100.00%					

注) 質問と選択項目の文言は本来のものと若干異なります。

2012 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	松田 康弘
委員	青木 雅明
委員	木村 史彦
委員	千木良 弘朗

会計大学院アンケート実施報告書 2012 年度前期

2013 年 1 月 21 日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会